

【六つの取組の視点のイメージ】

柿の木
(松江の文化)



ヤシの木
(新たな文化)

全く新しい
文化の創造

—松江の文化※を柿の木に例えた場合—

市民は、柿の木があることは知っているけれど、この柿がいつから植わっているのか、誰が世話をしているのか、甘いのか渋いのかよくわからない状態。

市・市民・文化や教育の活動者・事業者等の関係者は、柿の木の情報や現状をきちんと「知る」ことで「育てる」ことができる。「知り・育てる」ことが行き渡ると「伝える」ことのできる市民が増える。

柿の木を「伝える」ことのできる人が「創造する」ことにより新たな価値を生み出す。今までなかった新しい文化が育つこともあるし、たまたま流れ着いたヤシの実が、風土が合って根づき育つこともある。

伝統的なものや「創造」されたものを「活用する」ことで、人とのつながりを生み出したり、お金を稼ぐことができる。

柿の木の周りを草刈りや土壌改良をする人もいれば、柿祭りへの参加などで「支援（支える）」する場合もある。すべてを効率的に循環させることで、柿やヤシの木を守り育てていくことができる。

※「文化」には「伝統文化」や「文化芸術」を含んでいます。

